

21 seiki kyouiku forum

弘前大学21世紀教育センター

創刊号 2006

発刊にあたって 21世紀教育センター長 矢島忠夫

弘前大学21世紀教育センターの特徴と目的

論文

1 ティーチング・ポートフォリオの積極的導入—自己反省から授業改善へ— 土持ゲーリー法一

13 基礎数理科学教育を求めて 榊 真

17 自由の発露としての英語学習 上松 一

35 「2006年問題」に関する一考察 長南幸安

41 弘前大学4年生の視点に基づく21世紀教育の成果と課題 武田共治・谷田親彦

書評

53 諏訪淳一郎『ローカル歌謡の人類学—パプアニューギニア都市周辺村落における現代音楽の聴取と民衆意識—』
(弘前大学出版会、2005年) 木島由晶

研修会記録

55 「基礎ゼミナール」の共通理解を深める(第2回弘前大学ワークショップ)

61 「基礎ゼミナール」の意義 土持ゲーリー法一

64 弘前大学21世紀教育センターFDシンポジウム『教養教育と高等教育との接点』

その他

66 「21世紀教育特設テーマ科目」の紹介—「津軽学—歴史と文化」への誘い— 土持ゲーリー法一

69 オーストラリアの教育サポートシステム—クイーンズランド大学の事例— 佐々木長市

71 他大学の授業改善への取組の紹介—東北大学の「基礎ゼミ」— 土持ゲーリー法一

73 「言語力」大賞コンテストのねらい 雨森道紘

75 大学教育と大学図書館—大学改革は図書館から— 土持ゲーリー法一

79 弘前大学での忘れられない思い出 イ・ヒョジュ

刊行・投稿規定・執筆要項

『21世紀教育フォーラム』（創刊号）

目 次

発刊にあたって21世紀教育センター長 矢 島 忠 夫

弘前大学21世紀教育センターの特徴と目的

論 文

ティーチング・ポートフォリオの積極的導入 自己反省から授業改善へ.....	土持ゲーリー法一	1
基礎数理科学教育を求めて.....	榊 真	13
自由の発露としての英語学習.....	上 松 一	17
「2006年問題」に関する一考察.....	長 南 幸 安	35
弘前大学4年生の視点に基づく21世紀教育の成果と課題	武 田 共 治, 谷 田 親 彦	41

書 評

諏訪淳一郎著『ローカル歌謡の人類学 パプアニューギニア都市周辺村落における 現代音楽の聴取と民衆意識』.....	木 島 由 晶	53
---	---------	----

研修会記録

「基礎ゼミナール」の共通理解を深める - 第2回弘前大学ワークショップ -		55
「基礎ゼミナール」の意義	土持ゲーリー法一	61
弘前大学21世紀教育センターFDシンポジウム 『教養教育と高等教育との接点』.....		64

その他

「21世紀教育特設テーマ科目」の紹介 「津軽学 歴史と文化」への誘い.....	土持ゲーリー法一	66
オーストラリアの教育サポートシステム - クイーンズランド大学の事例 -	佐々木 長 市	69
他大学の授業改善への取組の紹介 - 東北大学の「基礎ゼミ」 -	土持ゲーリー法一	71
「言語力」大賞コンテストのねらい.....	雨 森 道 紘	73
大学教育と大学図書館 - 大学改革は図書館から -	土持ゲーリー法一	75
弘前大学での忘れられない思い出.....	イ・ヒョジュ	79
刊行・投稿規定・執筆要項.....		80

『21世紀教育フォーラム』刊行及び投稿規定

1. 本『フォーラム』は、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は概ね1月上旬とする。
4. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
5. 各論文の長さは図表等を含めて、400字詰め原稿用紙に換算して50枚以内とする。
6. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項(別掲)に従うものとする。
7. 翻訳・書評・提言に関しては編集委員会で決める。
8. 校正は原則として著者が行い、3校までとする。
9. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
10. 本『フォーラム』に掲載される内容は、センターのホームページで公開される。

この規定は、平成17年11月から施行する。

『21世紀教育フォーラム』執筆要項

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。原稿は3部提出する(3部のうち2部はコピーでかまわない)。なお、ワードプロセッサ等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したフロッピーディスク等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。
3. 本文の前に要旨(Abstract)及びキーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また、単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項(字体、下線、図表の挿入箇所など)は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表(写真を含む。白黒のみ)はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することを避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるような明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては所定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

『21世紀教育フォーラム』編集委員会

編集委員長 土持ゲーリー法一（21世紀教育センター高等教育研究開発室）
編 集 委 員 大 高 明 史 （教育学部）
 北 原 晴 男 （教育学部）
 佐 藤 光 輝 （教育学部）

編 集 後 記

『21世紀教育フォーラム』創刊号を発刊することができました。「フォーラム」には、広場という意味があります。全学部の教員に、21世紀における大学のカリキュラムや授業改善について執筆していただける機関誌に相応しい名称です。以前、日本とアメリカの学会の構成員について調べたことがあります。日本の学会が、その分野の専門家による集団であるのに対して、アメリカの学会では、他分野からの多くの人が構成員となり、投稿論文の内容も多岐にわたっていることに気づきました。学際的な研究が求められる現在、『21世紀教育フォーラム』の果たす役割は、きわめて重要であると思われます。

昨年10月、21世紀教育センター運営委員会での新しい委員の選出を待って、新たな編集委員会が発足しました。短期間での投稿論文の公募であったにもかかわらず、5本の論文を収めることができました。これは、『21世紀教育フォーラム』への期待の表れだと思います。その論文も概ね各学部から提出されたものです。

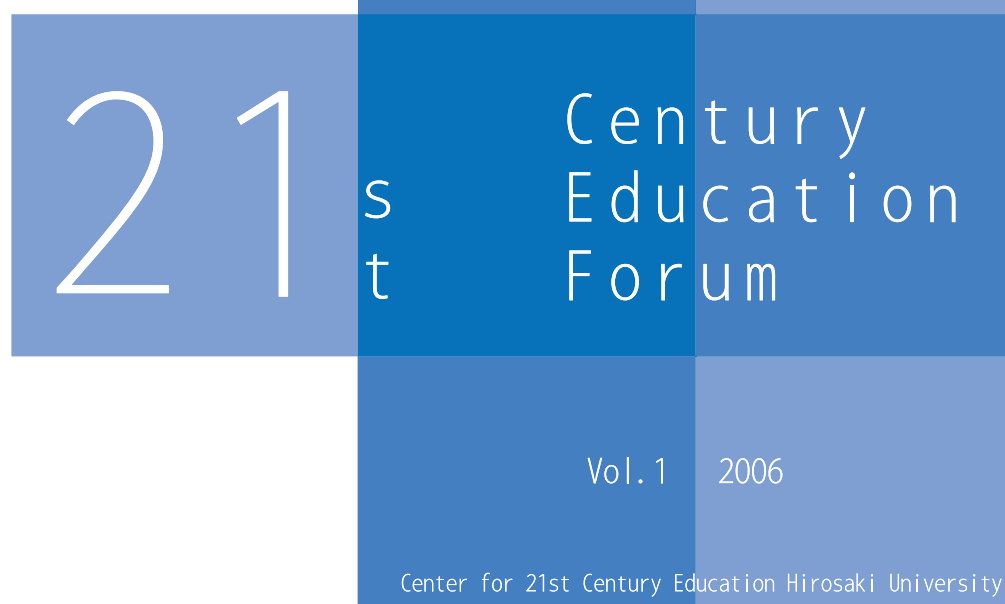
本年度の予算枠で刊行するようにとのことで、投稿された先生方には、年度末の多忙なところ、急いで校正をしてもらい感謝しています。来年度は十分な準備ができるので、より多くの方々に投稿していただきたいと思います。

本誌表紙のデザインは、編集委員の一人、佐藤光輝先生に考案していただきました。

（土持ゲーリー法一）

『21世紀教育フォーラム』創刊号

発	行	弘前大学21世紀教育センター
編	集	『21世紀教育フォーラム』編集委員会
		連絡先(編集委員長) 〒036-8560 青森県弘前市文京町1
		21世紀教育センター高等教育研究開発室
		土持ゲーリー法一
		電話：0172-39-3920
		E-Mail: apple45@cc.hirosaki-u.ac.jp
発行年月日		2006年3月31日
印刷・製本		やまと印刷株式会社



FOREWORD Tadao YAJIMA

CHARACTERISTICS and PURPOSE of the CENTER for the 21ST CENTURY EDUCATION at HIROSAKI UNIVERSITY

ARTICLES

- 1 An Introduction of the Teaching Portfolios: Reflection to Class Improvement Gary H. TSUCHIMOCHI
13 Seeking for the Fundamental Education of Mathematical Science Makoto SAKAKI
17 English Learning as a Liberating Experience Hajime UEMATSU
35 A Study of "Year of 2006 Educational Issues" Yukiyasu CHOUNAN
41 Themes and Outcomes for the 21st Century Education Through the Eyes of the Senior Students Kyoji TAKEDA
Chikahiko YATA

BOOKREVIEW

- 53 Junichiro SUWA, Anthropology of Local Pop: Listening of Contemporary Music and Identities around Madang, Papua New Guinea (Hirosaki University Press, 2005) (by Yoshimasa KIJIMA)

CONFERENCE/FACULTY DEVELOPMENT MINUTES

- 55 Understanding of "Freshman Seminar" (The Second Workshop at Hirosaki University)
61 The Meaning of "Freshman Seminar" Gary H. TSUCHIMOCHI
64 Liberal Education and High School Education (FD Symposium for the 21st Century Education, Hirosaki University)

OTHER TOPICS

- 66 New Course for the 21st Century Education: Introduction to TSUGARU: Its History and Culture Gary H. TSUCHIMOCHI
69 An Education Support System in Australia: A Case of the University of Queensland Choichi SASAKI
71 Other University Approaches on "Freshman Seminar:" A Case of the Tohoku University Gary H. TSUCHIMOCHI
73 The Purpose of a Literacy Award Contest Michihiro AMENOMORI
75 Reformation of the University Education: Innovative Ideas from University Library System Gary H. TSUCHIMOCHI
79 Unforgettable Memories at Hirosaki University LEE Hyo-Ju